

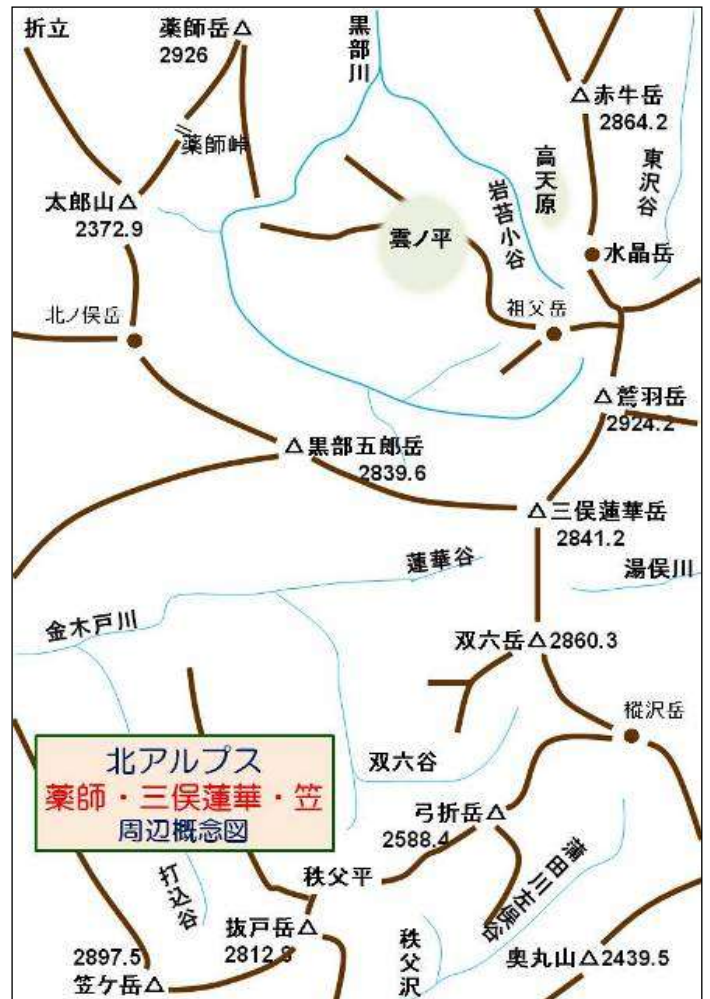
# 踏み跡 <My Mountains>

|       |     |        |
|-------|-----|--------|
| 北アルプス | 雲ノ平 | No.169 |
|-------|-----|--------|

12月に結婚することにした。この夏は、結婚したらもう行けないだろうと思うようなところへ行っておこうと思って考えた結果、雲ノ平へ入ることを思いついた。ひそかに検討を始めたのは5月だった。最初の課題は雲ノ平へ行って来るのには一週間必要だし、また一旦雲ノ平へ入ってしまった後に悪天候が続くと下山の日程が遅れる可能性がある。天候が安定している一週間が確保でき、かつその間体調を崩さないことが条件となる。次なる課題は、同じオフィスに勤務する彼女と（周囲にばれずに）同じ日程で夏期休暇を取らなければならないこと。結果的に、毎年一番天気安定度の高い時期に休暇をとることができた。（ねらい通り）

## 昭和46年7月29日 <出発>

初日に太郎兵衛平まで登らなければならない、その為には夜行列車での熟睡は必須条件になる。急行北陸2号の寝台をとってこれに備えた。京成電鉄の事故というアクシデント下でのスタートとなったが、21時15分に上野駅に到着。熟睡の秘薬缶ビールを飲んで乗車。21時28分に上野駅を発車、寝台車は寝心地が良い上に熟睡の秘薬の効果もあり22時には眠りについたようだ。



## 昭和46年7月30日 <富山→有峰口→折立→太郎兵衛平→薬師峠>

5時、目が覚めたら黒部に停車中だった。よく眠れたし快晴だし、言うことなし。富山着5時28分、予想したほどの混雑はなく無事富山電鉄に乗り換えることができた。有峰口からバスで有峰ダムへ。有峰ダムから一人200円でダンプカーの荷台に乗り、折立へ。かんかん照りの折立に9時15分に到着。比較的スムーズに入ることができた。ここは海拔1350m。これから始まる長丁場に緊張を隠せない。暑さ対策として短パンにはき替えて10時に出発。まず最初に真川に架かるつり橋を渡ることによって旅が始まり、つり橋が終わると突然目の前の尾根への登りが始まる。ガイドブックの表示は「太郎兵衛平まで5時間」となっている。最初の大きな登りが終わり1869.8m三角点に到達。500m余の標高差を登ってきたことにはなるが、主稜線は海拔2340m、まだ500m弱の標高差が残っている。12時、一時間の大休止をとってゆっくり昼食。太郎平小屋15時20分、やはり5時間かかった。目の前にどっかりと大きな薬師岳。稜線に到達した安心感も手伝って一口の水が旨い。10分の小休止ののち、稜線を北上し薬師峠のテントサイトへ。15時55分ツェルトを張り終えて、ラジオのスイッチオン。16時の気象通報を聴き天気図を作成。16時30分から夕食の支度を開始し、17時10分から初日終了を祝って(?)豚汁の宴。雲ノ平が一步ずつ近づいてくる感じがして、自分の体の中がわくわくしているのがわかる。明朝の雑炊用の飯を炊いてしまってから就寝。

## 昭和46年7月31日 <薬師峠→薬師沢下降点→カベツケガ原→薬師沢出合>

起床5時、天気は晴。朝食は昨晚の豚汁を利用した雑炊。7時30分出発。太郎山8時30分。水ヨウカンを食べた後雪渓でゆったりとスケッチと昼寝。今日の行程はほとんどが下り

## 踏み跡 <My Mountains>

であることから気分的に余裕がある。薬師・黒部五郎・三俣蓮華・・・、文句のつけようがない眺めだ。

朝っぱらから一時間半もかけてゆっくり景色を楽しみ、10時に出発。薬師沢下降点 10時10分。「いよいよ雲ノ平に向かうぞ！」と気分が盛り上がってくる。

カベツケガ原 12時、30分の中休止。水場を探したが黒部川へ下りないと水は得られない。

薬師沢出合（薬師沢小屋前）12時45分。ツエルトを張る場所を決めて昼食の準備を始めたらとたんに大雨。

雨を避けるべく小屋の中に避難。夕方近くなり雨は上がったが、地面もたっぷり濡れていることだし面倒でもあるので、今日は小屋泊まりに変更。（素泊まり 950円）

持参したつり竿と毛バリで岩魚釣りを試みたが、大雨の後のせいか残念ながら収穫なし。（上写真）

夕食は雨上がりの河原でカレーライス。小屋は6畳に11人の人口密度。19時に就寝。



### 昭和46年8月1日 <薬師沢出合→雲ノ平山荘→祖父岳→雲のTS>

起床4時30分、天気は晴。朝食は、昨夜のカレーの残りを利用したカレーラーメン。6時30分出発。

今日は、沢筋から雲ノ平の平坦地に向かって登って行く日。

8時30分最初の平坦地で小休止。薬師の大きさと風格にはただただ圧倒されるばかり。やがて黒部五郎と白山もなかなかのアングルで入ってくる。

雲ノ平山荘 10時45分。ここまで辿り着いたことを祝して缶ビールとカルピスで乾杯。

雲のTS（テントサイト）と呼ばれる幕営地にツエルトを張る場所を確保して昼食。



黒部の谷を隔てて大きな薬師



ツエルトの後に黒部五郎

昼食の後は、いよいよ雲ノ平周辺の散策を開始。まずは手始めに祖父岳をピストン。夕食は焼き肉にスープと海苔。夕食の後はスケッチと（大事に運んできた）花火。蚊とブヨの猛攻に悩まされてツエルトの中に退散。20時就寝。

### 昭和46年8月2日 <雲のTS→祖父岳→水晶池→高高原→雲のTS>

4時起床、快精、素晴らしい青空に思わず歓声が上がってしまう。

今日はツエルトを張ったままで雲ノ平周辺散策。7時出発。

祖父岳 8時、しばしスケッチを楽しむことにして朝から贅沢に一時間の大休止。槍ヶ岳・北鎌尾根・笠ヶ岳・野口五郎・鷺羽・水晶・赤牛などが立派な風貌で目に入ってくる。

岩苔乗越を経て水晶池へ。北八ヶ岳の雨池を小さく暗くしたような感じの池。池のほとりでおやつと小休止。

高高原 11時30分。ニッコウキスゲとワタスゲの原に薬師岳が加わり襖絵を見るような場所だ。ここで昼食

を取らなければ・・・とちょっと早めの昼食。13時までゆっくり楽しむ。高高原峠を越えて雲のTSへ16時に帰着。夕食は野菜炒め。毎日良い天気でありがたいことだ。20時に就寝。

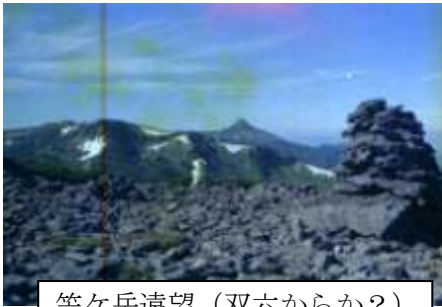


### 昭和46年8月3日 <雲のTS→祖父岳→ワリモ岳→鷺羽岳→双六岳→双六小屋>

起床4時、天気は快晴。好天に恵まれた夢のような雲ノ平での暮らしは終わり、今日は雲ノ平を抜け出して双六まで駒を進める日。ここで悪天候になって停滞日が発生すると下山日程が狂ってしまう。一番スリリングな一日でもある。

## 踏み跡 <My Mountains>

朝食は雑炊。6時30分に出発。雲ノ平、こんな不便な場所へもう一度来ることができるだろうか？そんな風に考えると一歩踏み出すのが惜しくなる。



笠ヶ岳遠望（双六からか？）

祖父岳7時30分。ワリモ岳9時、スケッチブックを開いて一時間の休憩。鷲羽岳、三俣蓮華から双六にかけての柔らかな曲線に残雪と緑の調和が何とも表現しがたい美しさ。三俣山荘11時、昼食の後デザートにミカンの缶詰。これで元気をつけて双六までがんばる。

双六小屋14時45分。主食用の食料は明朝用の素麵を残すのみとなったので、今日は

夕食付きの小屋泊まり。双六小屋の夕食は17時。自分で作らずに食べる夕食は何か時間を持て余してしまいそうだ。食事の後はスケッチに色づけ。明日は下界に降りることになる。20時に就寝。



槍を前に置いて歩く

### 昭和46年8月4日 <双六小屋→大ノマ乗越→秩父沢→新穂高→高山>

起床4時20分、天気は晴だが台風の影響が出始めているようで風が強い。朝食は三輪素麵、これで主食はすべて終わり。6時20分出発。弓折岳を越えて大ノマ乗越で大休止、7時50分。小一時間かけて朝のスケッチ。

大ノマ乗越で稜線を離れて蒲田川側へ下ると、しばらくで鏡平からの道と一緒になる。（右写真：蒲田川へ下る道）

秩父沢の流れで顔を洗い15分の休憩をとり、蒲田川左俣谷に10時30分に到着。ここまでくればもう下山したようなもの、残りの食料を全部並べて（軽めの行動食ばかり）最後の昼食。

すっかり身軽な気分になって新穂高温泉に13時50分到着。

食堂に飛び込み、正式な昼食。旅の終わりを祝してビールで乾杯し、デザートにアイスクリームまで。

バスは16時15分発、高山駅着18時30分。案内所で旅館を探して一泊し、一週間ぶりの垢落とし。



### 昭和46年8月5日 <高山→名古屋→帰京>

朝の高山の町を散歩して朝市で買い物。

高山発11時11分急行のりくら3号、名古屋発14時38分こだま144号。


いつもの山歩きよりは早めの帰宅となった。

憧れの雲ノ平は、やはり憧れたとおりの素晴らしい所だった。機会があればもう一度行ってみたい所ではあるが、そうそう機会はないだろう。もし時の流れにより便利な観光地になってしまうことがあったら・・・いや、そんなことはないことを願いたい。世の中には、なかなか行けない場所があった方がいいと思う。

以上

# 踏み跡 <My Mountains>

## 雲ノ平の旅 スケッチ集

|   |  |  |
|---|--|--|
|  |  |   |
| 雲のTSから祖父岳   | 高天原からの薬師岳  | 黒部五郎岳と加賀白山   |
|  |  |  |
| 祖父岳から槍を望む   | 大ノマ乗越から槍・穂高方面  | 槍に向かって進む   |